

[投稿]

近くて、大きな国(中華人民共和国)との協力関係を確立

城 好彦 Yoshihiko JO
土木学会 参与 国際室長

中国土木工程学会との協力協定調印式

土木学会は、第12番目の海外協定学会となる中国土木工程学会(China Civil Engineering Society, 以下CCES)との間に協力協定を締結した。調印式は5月12日、北京の建設省内の会議室で行われた。出席者は、CCES側が姚兵(副理事長)、唐美樹(秘書長)、羅祥麒(副秘書長)、張俊清(国際連絡部主任)、周貴榮(国際連絡部主管)の5名、土木学会側は岡田宏会長、平野衛(土木学会会員)、長濱正信(JICA派遣専門家、在北京、連絡員)、周敏西(日中鉄道友好推進協議会、通訳)と筆者の5名である。

調印に先立ち、岡田会長が「今回の協力協定書に何か問題はありますか」と切り出すと、中国側は、何度も意見交換を重ねて合意したものであり、この協定書に基づいて実行することに異存はないと回答したので両学会の紹介に移った。

岡田会長が土木学会の紹介からはじめ、日本国内での学会活動は、長い歴史と多くの実績を誇っていること、近年国際活動が急速に活発化してきたことを紹介した。急速な国際化は「技術に国境はないからだ」と会長は強調し、これに対応するため国際室を新設するなど、体制の整備を進めていることを説明した。

さらに、国際活動を専門に取り扱う国際委員会が設置されていることを説明し、英文広報誌や英文ニュース・レターの発行、英文ホーム・ページの開設、全国大会に英語セッションと英語による研究討論会を設けていることなど国際化に向けた取組みを紹介した。また、協定を結んでいる海外の学協会との間でホットなニュースの交換をするため、学会誌に特別のカラムを計画している他、海外の技術者との交流を促進するため海外支所の設立も準備していることなども紹介した。

また、土木学会は、アジアを重点地域と考えており、1998年に第1回アジア土木技術国際会議をマニラでアメリカ、フィリピンの土木学会との共催で開催したのに続き、2001年4月には第2回会議を東京で開催する計画を披露すると、中国側は大変に興味を示し、ぜひ参画したいとの意向を示した。

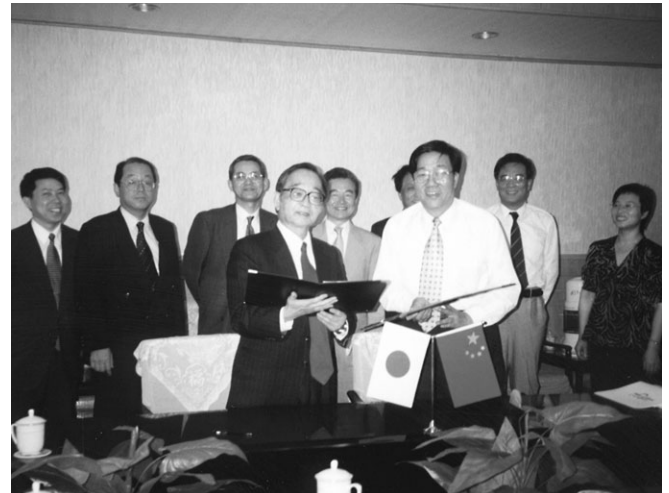


写真-1 協力協定調印式(前列、岡田宏会長(左)と姚兵副理事長(右))

国際関係を重視する中国の姿勢

続いて、中国側がCCESの紹介をした。設立は、1912年で土木学会より2年古い。会員数は9万で2倍の規模を持ち、12部門50の委員会から構成されている。全国30の省に支部を置いている。理事長の任期は4年で、現理事長は元建設大臣である。

説明が終わると、東京での第2回アジア土木技術国際会議にただ参加するのではなく、実行委員会に加えて欲しい、また、第3回は中国で開きたいと、大変な意気込みであった。岡田会長も、大国中国の参加は大歓迎すると回答し、大きな盛り上がりのなかで協定書の調印と記念品の交換が行われた。

姚兵副理事長は大変エネルギッシュな方で、ワイシャツ姿で調印に臨まれ、

「調印は楽だが、実行が重要だ」

「岡田会長と城国際室長とは友達になった」

「さあ、国際的な技術交流を始めよう！」

という元気な言葉で閉会した。

調印式後、姚兵副理事長の執務室に案内され、大学教授も勤める氏の著書をいただいたので、小生も自著を差し上げ技術交流が早速はじまった。

21世紀の巨大市場となる中国との土木技術分野の国際交流に向け、その第一歩を踏み出したといえる。